

○第5回研修会 ※オンライン開催（第3回センター研修講座 公開授業）

今回は、内浜小学校の重枝光子先生に授業公開していただきました。授業の協議会では、「目標達成の手立ての工夫は、有効であったか」（板書の工夫・教具の工夫・活動の工夫等）、「単元計画の工夫は適切であったか」（日本語教室＋在籍）という2つのポイントにしぼって協議の柱を立て話し合いを行いました。算数科の授業において数量や図形について抽象的・概念的な言葉や記号を理解させることは日本語の力が十分でない子どもたちにとっては大変ハードルの高いものです。しかしながら、先生の授業では理解支援・表現支援などさまざまな実践が取り入れられていました。また、先行授業を行うことにより在籍学級での学習にスムーズについていけるよう大切なところを絞って指導されていました。

- ・「身の回りにある直角や平行」をアクティブに探すことができていた。
- ・大切な言葉や文が板書されていたので、授業の途中でも振り返りでも、そこを見ながら児童は言葉にすることができていた。
- ・直角シールを貼りながら「たくさん！」という声が聞こえた。様々な道具がとてもよかったです。
- ・筆箱にまとめたカードを入れて在籍学級で振り返りができるアイデアが良かった。
- ・今日の学習で人に説明するという学びあいや対話につながる活動。
- ・「平行」「垂直」等の言葉を知ったうえで在籍学級の授業に参加できるので、在籍学級での授業に主体的に参加できそう。

○第6回研修会 ※オンライン開催（第4回センター研修講座 公開授業）

今回は、博多中学校の萬石ゆかり先生に日本語初期指導（みんなの日本語43課）の授業公開をしていただきました。対象生徒2名のオンライン授業でしたが、なかなかそのような授業を見る機会はないため大変貴重な時間となりました。

授業後の協議会の柱は「目標設定は適切であったか」、「目標達成のための支援は適切であったか」という2つの柱で協議を行いました。日本語指導に携わる中で感じるのは外国人児童生徒が皆、日本語の学習に対する意欲があるとは限らないということです。萬石先生の授業では、生徒に学習意欲をもたせるための理解支援（絵やレアリア、さまざまな小道具等）がふんだんに盛り込まれていました。また発話を促すために身近な場面設定をしたり、生徒の興味・関心があるものを取り上げたりしていました。

「書く」活動の際は、ペンを画面に映す、事前に活動で使うアイテムを持ち帰らせるなど、オンライン授業ならではの工夫もなされていました。これらの支援により、生徒たちは最初に比べるととても積極的に発話しようとする姿勢が見られました。また、先生が授業の中でとてもよく生徒をほめていたのも印象的でした。それも2人の発話に対する意欲につながっているようでした。

- ・身近な生活に即した例文がたくさん使用されていた。
- ・みんなは大人向けなので論理的な思考を要する部分が多いので母国での学習の様子が日本語基礎の理解にも大いに関係があると思われる。
- ・て形の復習は効果があった。
- ・「理解する」は、ある程度達成できていたように思う。おおむね産出できていた。

今回の授業は、世の中の情勢が大変困難な状況下であった中、お二人とも大変快く授業公開を引き受けて下さいました。本当にありがとうございました。これからの私たちの毎日の授業実践の中で、今日学んだことをしっかりと実践していきましょう。